

ロシア為替週報

2022年3月7日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(2月26日～3月4日)

USD/RUB: 97.750～125.00

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、週明け28日早々から大暴落。史上最安値(対ドル)を119.50(注1)まで一気に更新し、その後も、史上最安値圏で、一日の値幅が10%を優に超えるような乱高下を続けた。27日、米英EUは追加制裁を発表、一部ロシア銀のSWIFTからの除外(後述)、航空機の乗り入れ禁止などの他、最も効力を発したのはロシア中銀の資産凍結。前週24/25日の両日で1,000百万ドルを超える規模のルーブル買い介入を実施した同中銀は、28日以降、為替介入を封じられた。前後して同中銀/ロシア当局は、①利上げ(9.50→20.00%) ②輸出売上の80%売却義務導入 ③非居住者の資金国外持ち出し禁止 ④居住者の外貨国外送金禁止 ⑤現地株式市場休場(実質的な売却禁止) ⑥国外投資家への資金支払い禁止(国債利払いなどは「継続」したものの、それを受け取る手段を封じた格好) ⑦居住者個人の外貨購入手数料を30%に引き上げなど、あの手この手でルーブル安抑制を画策したが、為替介入ほどの効果を挙げることはできなかった。同時に、ロシア中銀は担保要件の緩和と大規模な資金供給を実施、あわや「取付騒ぎ」に陥りかけた国内金融システムの(ルーブル)流動性を確保した。それでも、ルーブル為替の安定には程遠く、上述の通り、(2014年12月の乱高下を除けば)別次元と言える乱高下を続け、4日には、ルーブルは125.00まで史上最安値を更新した。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/28	6:45	1週間物入札金利		20.00%		9.50%
3/2	16:00	小売売上高(前年比)	1月	+3.6%	+3.9%	+5.4%
	16:00	失業率	1月	4.4%	4.2%	4.3%
	16:00	実質賃金(前年比)	12月	+3.6%	+2.3%	+3.4%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(3月5日～3月11日)

USD/RUB: 110.00～130.00

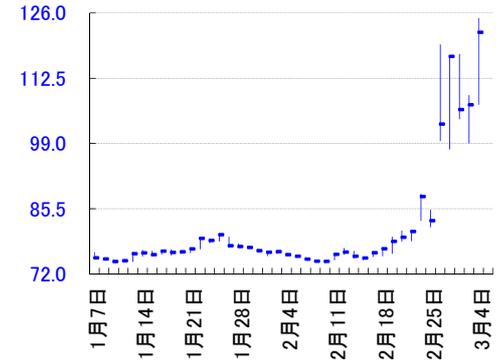
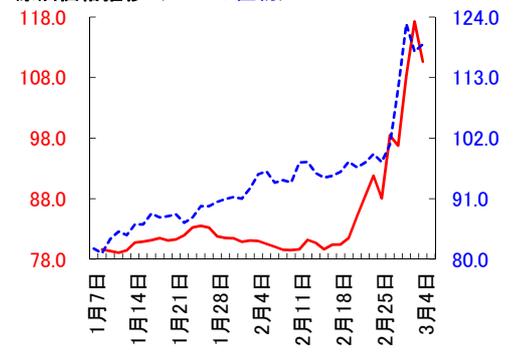
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、本格的に反発する可能性はほぼないと考えるものの、どこまで売り込まれるかも目途が立たない。ロシアの経常収支が、今後どのような推移をたどるとしても、ロシア中銀の資産が凍結された以上、ルーブルの買い手が足りないのは間違いないと思われる。一方、ルーブル建資産の売却も、ロシア国外への資金送金も、原則封じられた現状で、誰が、どれだけ、売れるルーブルを持っているのか、具体像を描くこともできない。SWIFTからの除外は、従前から警戒されていたし、その対象が一部のロシア銀に限られ、最大手二行(ズベル銀とガスプロム銀)は、少なくとも今のところ除外から除外されている。やはり警戒されていたロシアからのガス輸入(EU)、原油輸入(米)が現在まで封じられていないのも、制裁した側の浴びる返り血が大きいという事情がある(注2)。その点、中銀資産の凍結(注3)は、西側の被害はないに等しいと考えられているが、果たしてそうだろうか。金融市場ではロシア国債デフォルトの有無や、その判断基準などが話題になっているが、自国中銀が仏日独米英に預けておいた資産を一方向的に差し押さえられて、ロシア側が自国国債の元利支払い履行義務を果たすと期待すること自体、そもそも無理があるのではなかろうか。欧米は、現在までにロシアからの燃料輸入を封じてはいないものの、既に民間企業(燃料、自動車、大手小売りなど)が将来の制裁を先取り(注4)する形で、次々とロシアから撤退を始めている。今後、ロシアが、イランや北朝鮮のように、世界経済から切り離されていく可能性は高い。その際、重要と思われる目線は、ロシア経済は上述2経済よりも、はるかに大きく世界経済に組み込まれてきた点と、紛争が長引けば長引くほど、世界経済とロシア経済の隔絶が広がるであろう点ではなかろうか。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

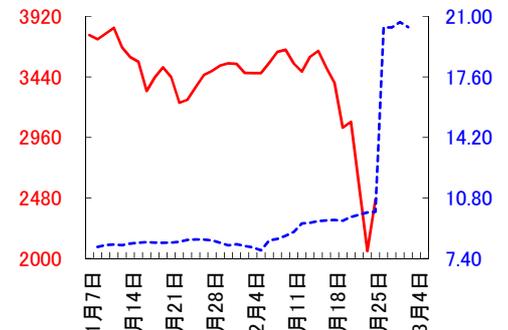
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/7-3/11		国民福祉基金残高(USD)	2月			174.9bn
3/9	13:00	外貨準備高(USD)	2月		625.0bn	630.2bn
	16:00	CPI(前年比)	2月		+8.80%	+8.73%
3/9-3/11		財政収支(RUB/年初来)	2月		+213.0bn	+125.0bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUBの推移(日足/ロンドン7:00～17:00)

株ルーブル/バスケット推移(ロシア中銀公示)
原油価格推移(ブレント直物)

株式/金利相場の推移(MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		20.00%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+4.3%
失業率	1月	4.4%
消費者物価(前年比)	1月	+8.73%
小売売上高(前年比)	1月	+3.6%
鉱工業生産(前年比)	1月	+8.6%
貿易収支(USD)	12月	+26.7bn

(注1) 欧州勢参入前の時間外取引

(注2) EUがロシア最大手2行をSWIFT除外の対象外としたのも、輸入ガス代金の支払いのため

(注3) 後講釈でしかないものの、「想定を上回る」全面戦争にロシアが打って出た時点で、「想定を上回る」厳しい制裁を西側が導入する可能性にも身構えるべきだった

(注4) 現時点で、仮に、ロシア事業継続が可能であったとしても、「次に何が来るかわからないのが最も恐ろしい」という制裁の本質を鑑みて、少しでも秩序が残る間に、自主的撤退を決断したと思われる民間企業が続出した

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。